

令和3年2月26日

保護者の皆様

仙台市立幸町小学校
校長 稲葉 俊一

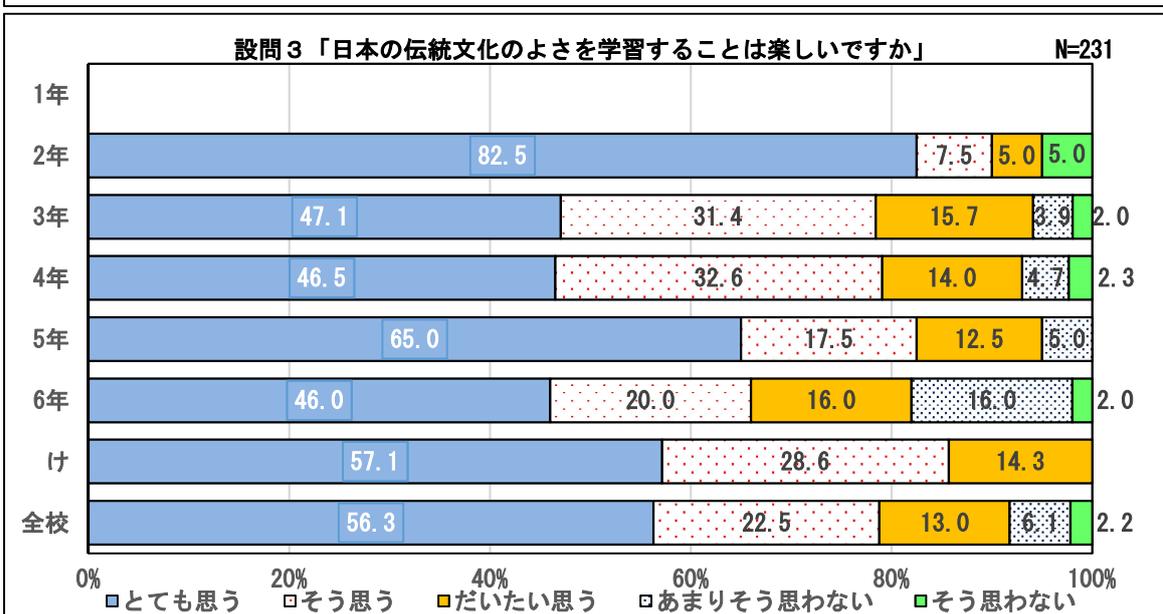
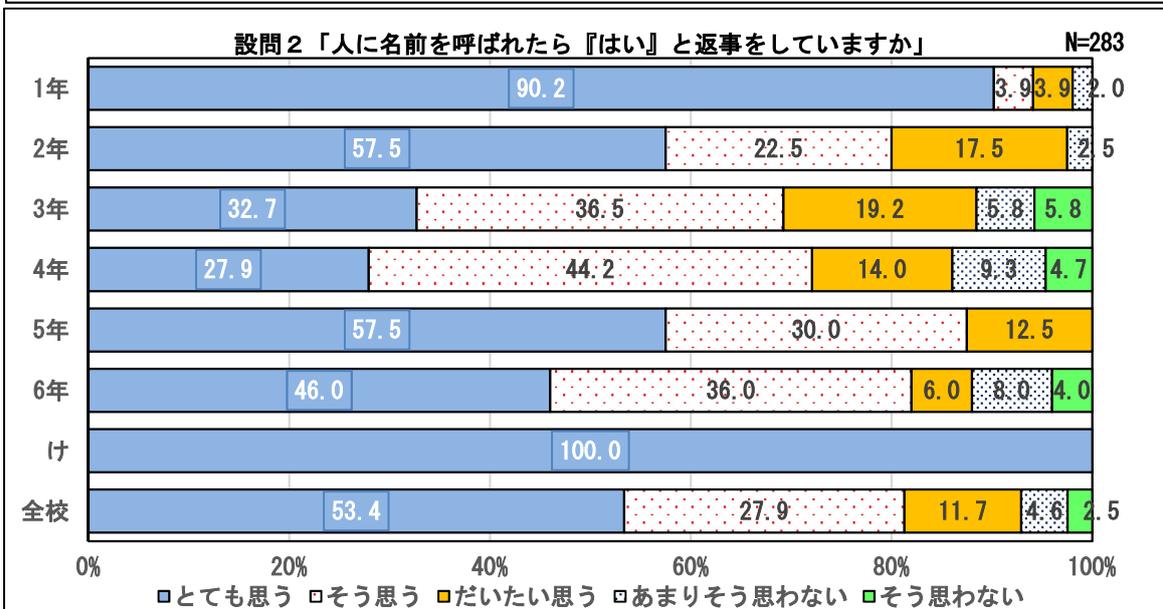
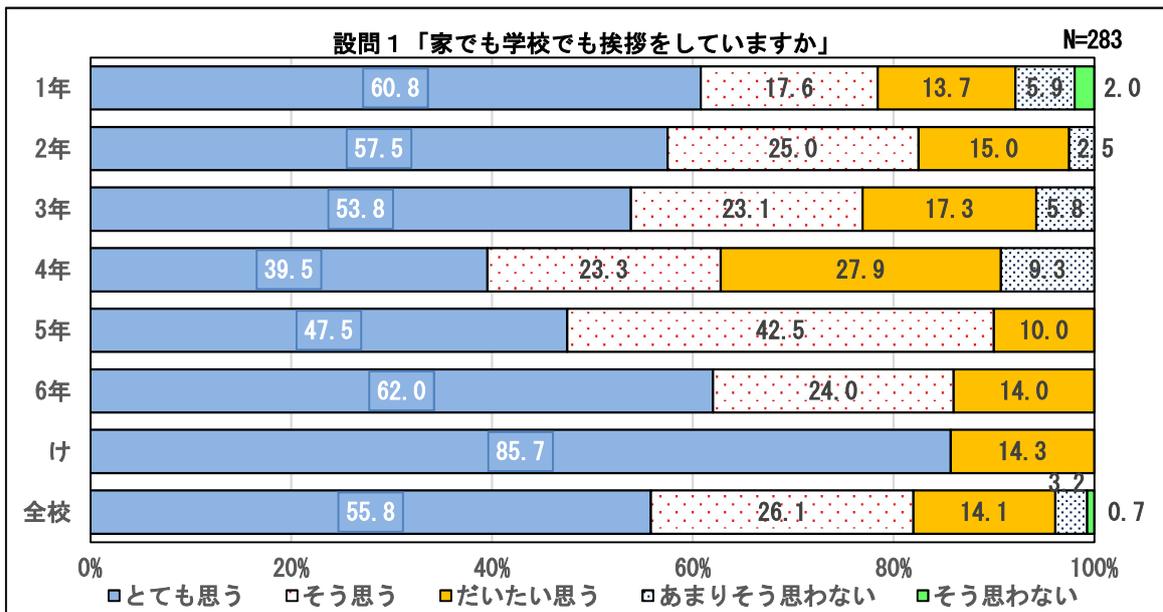
令和2年度 協働型学校評価等の集計結果について

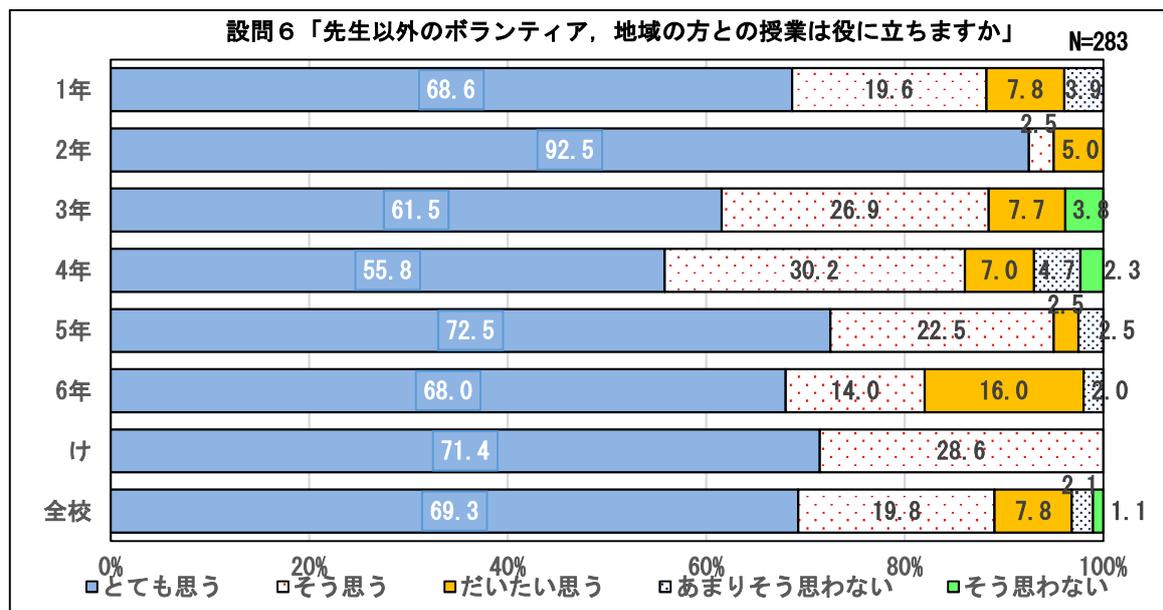
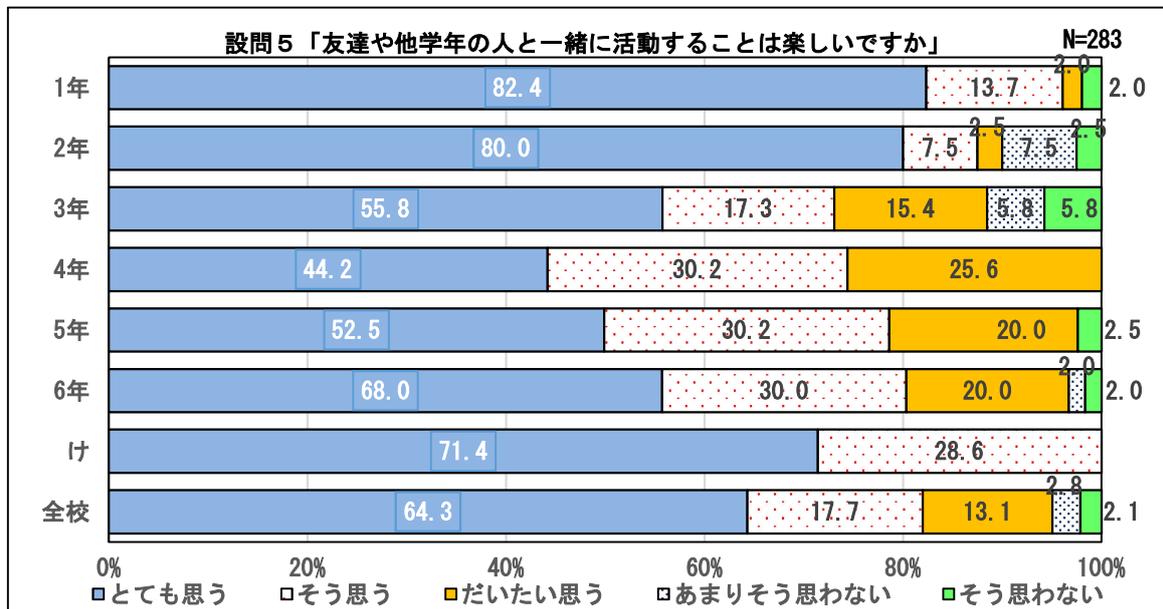
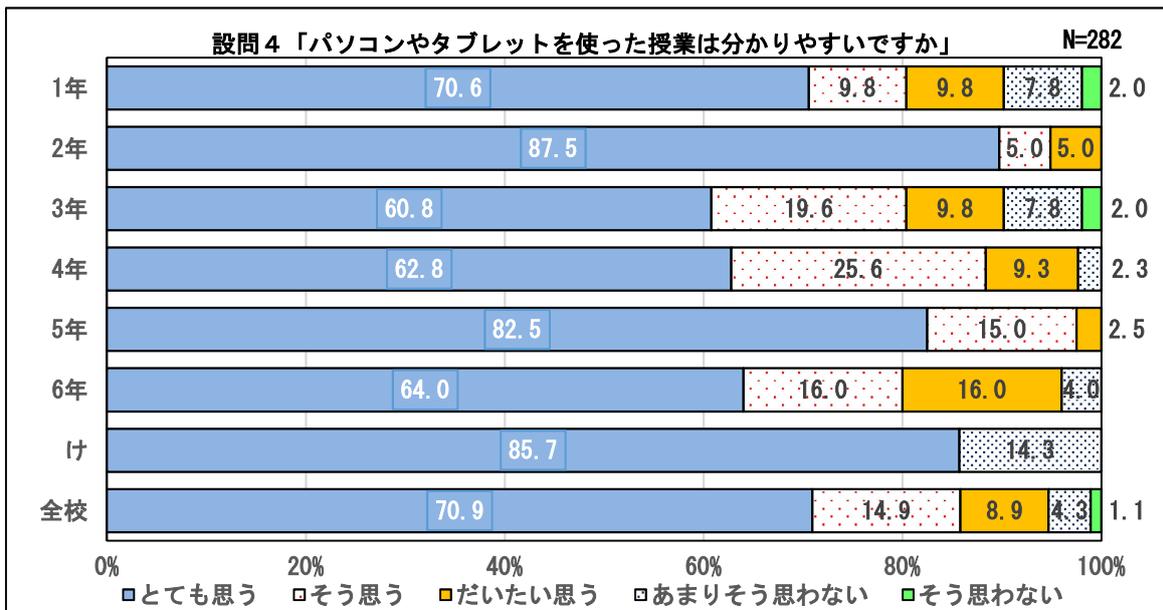
日増しに温かくなり、ようやく春めいてまいりました。保護者の皆様におかれましては、ますます御健勝のこととお喜び申し上げます。また、日頃から本校の教育活動に際しましては、心温かい励ましや御協力を賜りまして深く感謝申し上げます。さて、過日の標記アンケートにおきましては、学校教育活動の改善に向けた貴重な御意見をいただきまして、誠にありがとうございました。この度、アンケートの結果及び考察についてまとめましたので、御報告させていただきます。

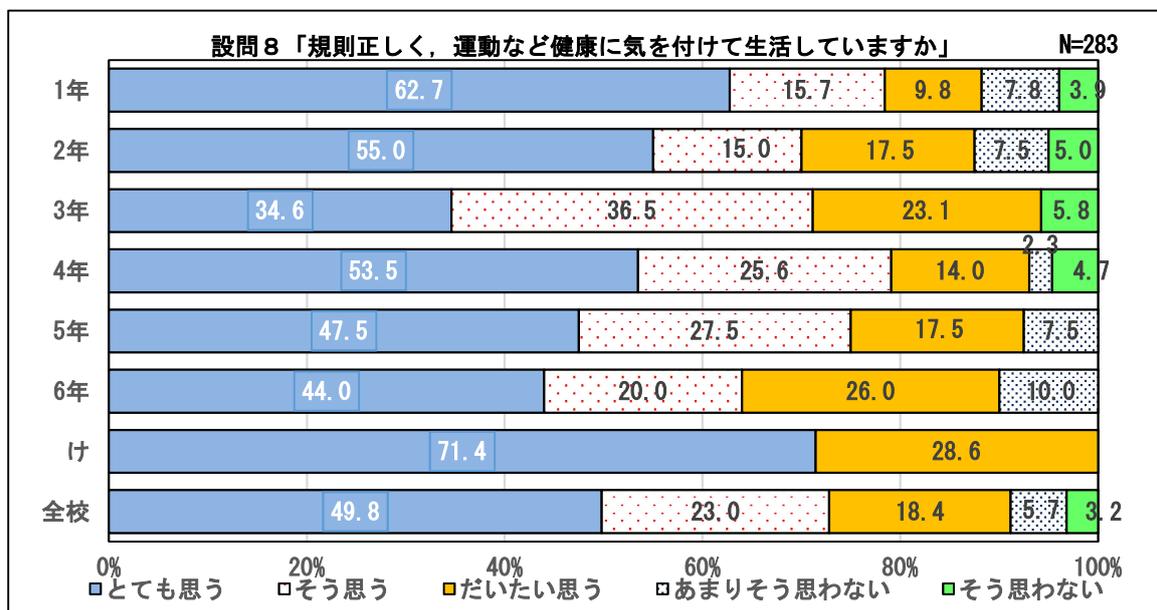
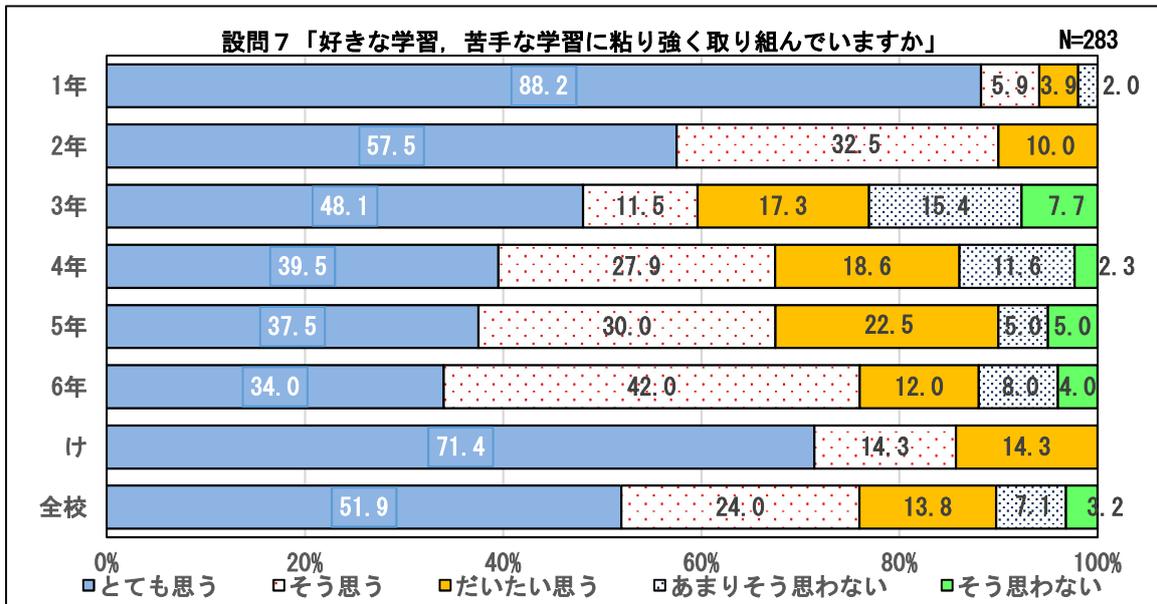
学校では、保護者の皆様、評価委員の皆様からいただいた御回答及び御意見や教職員による自己評価等をもとに話し合いを行い、新年度計画の策定に取り組んでまいりました。

今年度の協働型学校評価の重点目標についての成果と課題を把握し、課題となった点につきましては、次年度の学校の教育活動の中で取り組むのはもちろんのこと、保護者の皆様や地域の皆様との連携も図りながら改善に向けて取り組んでいきたいと考えております。今後とも、一層の御理解と御協力をお願い申し上げます。

1 児童アンケートについて







(1) 分析について

〈設問1, 2 協働型重点目標について〉

- ・挨拶に関しては, 4年生以外はおおむね8割の児童が「とても思う」「そう思う」と評価していました。立ち止まって挨拶する児童も増え, 来校者の方からお褒めの言葉をいただくこともよくあります。返事に関しては, 中学年は7割, その他の学年は8割の児童がプラス評価でした。

〈設問3 伝統文化教育〉

- ・6年生以外は80%以上の児童が「とても思う」「そう思う」と評価していました。今年度は, 新型コロナウイルス感染拡大防止の措置のために, 活動に制約がありましたが, 予防対策を講じながら授業を組んできました。茶道体験や狂言・能の授業はゲストティーチャーをお呼びして, 本物に触れる体験活動を実施することができました。本校の教育の特色でもある伝統文化教育を途切れることがないように, コロナの感染状況を見ながら, 時期をずらしたり, 予防対策を講じたりしながら実施いたしました。

〈設問4 学習面 ICT活用〉

- ・全学年が高く評価していました。学力向上にもつながるような活動の展開も期待できます。GIGA スクール導入ということで, 2月には全校児童に一人一台ずつタブレット端末が配布となりました。パスワード設定等も各学年で進んでおり, 今後は授業に欠かせない一つのツールとして活用していくこととなります。教職員は, 学年に応じた効果的な活用法を身に付けて授業をするために, 校内外で研修を重ねています。児童の学習意欲の喚起や学力向上に大いに役立てていきたいと考えています。

〈設問5 異学年の学び合い〉

- ・今年度は機会が限られており、難しいところがあった中で、低・高学年は高評価が8割にほぼ達していました。上の学年の児童が下の学年の児童に何かを教えたり伝えたりすることは自己有用感を高めることに繋がります。児童会行事がなかなか通常どおりできなかったのですが、放送による「1年生を楽しませる会」や2学期からの各委員会での活動、体力・運動能力調査テストでの測定補助など、高学年にとっては、やりがいのある楽しい活動ができたのではないかと読み取れます。中学年にとっても異学年交流の機会が増えるよう、来年度は工夫していきます。

〈設問6 学習支援、地域支援〉

- ・全学年が高評価でした。自己有用感を育む活動、人と人の温かい交流の機会となる活動が多くあったことで、児童の満足感が高かったと考えられます。学校では、教職員だけでなく、地域の方々、ボランティアの方々、ゲストティーチャー、担任以外の教職員等から児童の学校生活のサポートを得ることで、児童は安心して学習課題に取り組めたようです。たくさんの方に見守られることによって、児童はやる気を出して学習に取り組むようになり、褒めてもらうことで自己有用感も高まります。学力向上につながるような活動の展開も期待できます。

〈設問7 学習面・粘り強く取り組む姿勢〉

- ・低学年は90%以上の児童が「とても思う」「そう思う」と評価していました。6年生も85.7%と学習に関して根気強く取り組んでいることが伝わってきました。全体としても、「とても思う」「そう思う」と高評価をした児童は7割を超えていましたが、学年が上がるにつれて、「とても思う」の割合が低くなっていました。本校の児童が落ち着いて授業に取り組む雰囲気を、来年度も大切に育てていきたいと考えています。

〈設問8 規則正しい生活、体力面〉

- ・「全校」の欄で比較すると、他の項目よりもやや低い評価でした。早寝早起き、バランスの取れた食事、適度な運動といった規則正しい生活習慣を身に付けることは、児童の健康を保つために必要不可欠です。授業に向かう集中力や根気強さとも大いに関連があるのではないかと思います。ゲームやメディアとの付き合い方、時間の管理の仕方、進んで体を動かすこと等を意識していくよう学校でも声掛けをしていきます。

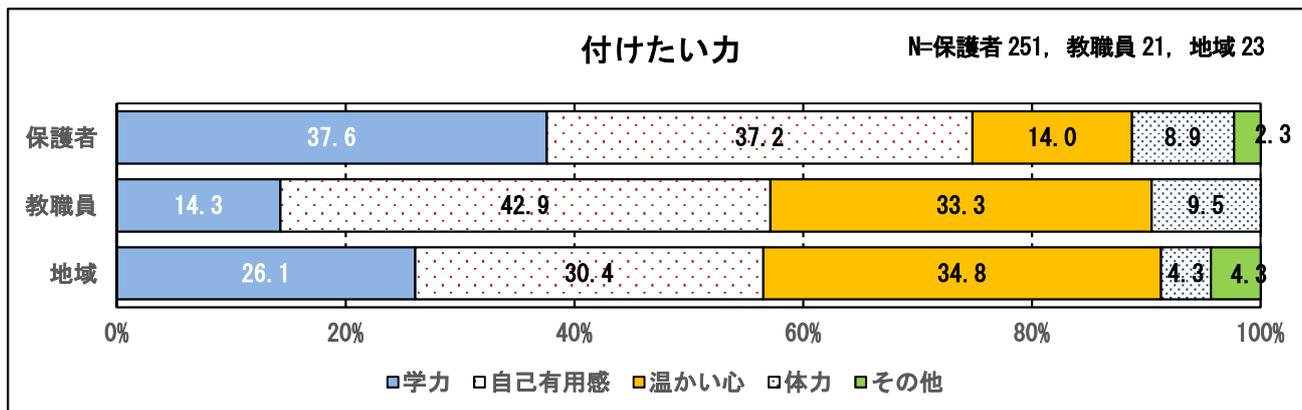
(2) 学校関係者評価委員会から

- 伝統文化の学習には普段から興味を持って取り組んでいるようだ。
- 低学年の児童の宿題の取りみ方を見ると成長を感じる。
- 雨の日に傘をしっかりと巻いている児童が多いことに感心する。しつけの面でも伸びている。
- 規則を守ろうとする気持ちがある。
- 係の仕事等を頑張っている。活動への意欲を伸ばしてほしい。
- 運動不足やゲームのやり過ぎによる影響が懸念される。
- 児童の知的好奇心は高い。大人が、深く追求する場面をサポートすることで伸ばしていける。

2 付けたい力アンケート（保護者・教職員・地域）について

幸町小学校の子供たちに付けさせたい力は何だと感じますか。

- 1 学力（基礎基本の学力，学習習慣，体育学習，パソコンやタブレットを活用した学習など）
- 2 自己有用感を育む活動（同学年・異学年の学び合い，学んだことを発信する学習など）
- 3 温かい心（おもてなしの心を育む伝統文化教育の継承，たてわり活動など）
- 4 体力（健康，元気，食育，体力作りなど）
- 5 その他



(1) 分析について

- ・保護者が児童に付けたい力として回答したのは、「学力」「自己有用感を育む活動」がほぼ同数でした。
- ・教職員は「自己有用感を育む活動」約43%、「温かい心」約39%と回答しました。
- ・地域の方からは、「温かい心」「自己有用感を育む活動」「学力」の順で意見が寄せられました。
- ・児童アンケートを含め、以上の結果から、異学年交流やボランティアの方々やゲストティーチャーなどとの温かい関わり合いを取り入れた学習環境の中で、自分に自信を持たせられるような活動を工夫し、継続して展開していきたいという思いが三者から感じられました。
- ・本校児童が落ち着いた態度で授業に取り組む姿、挨拶や礼儀を重んじて人と丁寧に関わり合う姿から、伝統文化教育の教育的効果の大きさを感じています。お茶の活動や日本伝統芸能の文化の鑑賞の授業等を通して、落ち着いた所作やおもてなしの心を身に付けています。コロナ禍で例年通りの活動は難しいところがありましたが、今後も本校の特色として継続して取り組んでいきたいという意見が多く寄せられました。
- ・保護者からの期待が高かった学力向上に関しては、来年度は読書活動に力を入れて取り組んでいきます。
- ・学力向上に有効な手立てとして、読書活動に継続して取り組み、「興味関心を持って、自ら深く考え、よく学ぶ子供」を育てていきます。

(2) 学校関係者評価委員会から

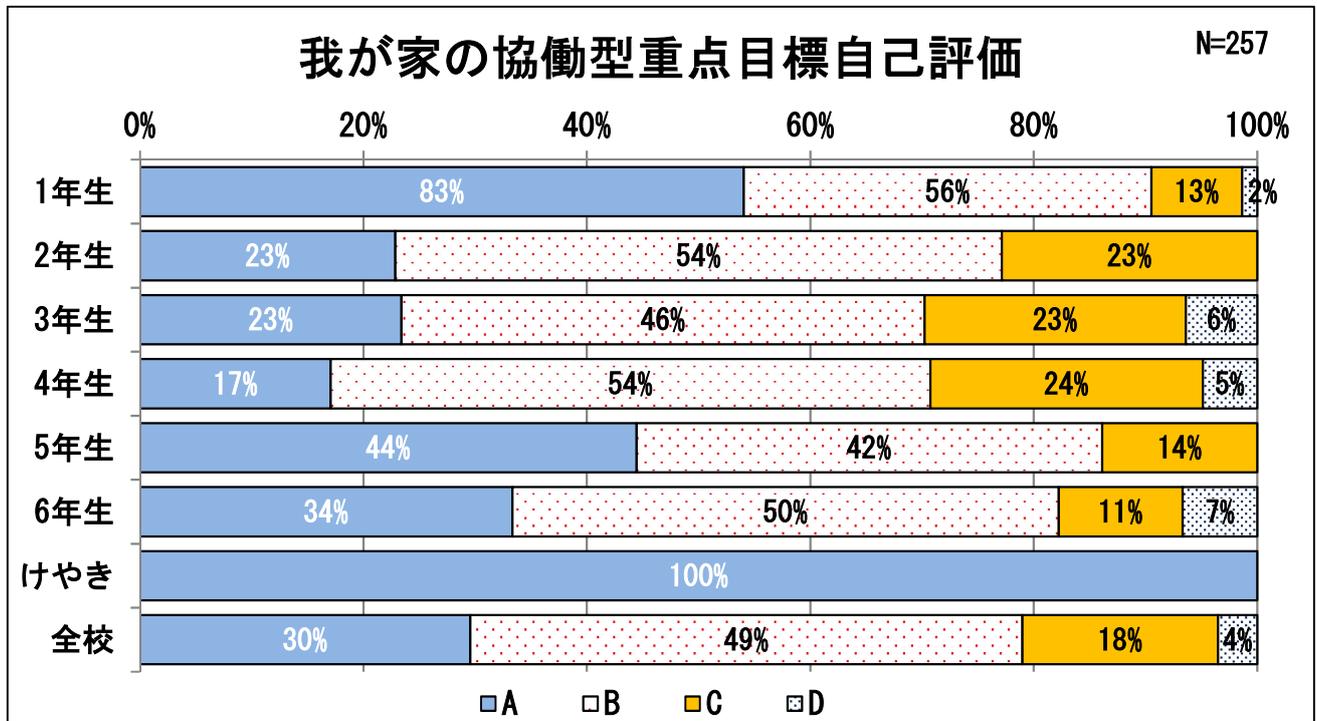
- ・学力を求めるのは本音であるが、一方では、日本の高校生は世界的に自己肯定感が低いという調査結果もある。今後は学び合い発信する力，コミュニケーション能力が大事。そして物事を伝えたり考えたりするときに大事なのは言葉。その意味でも読書活動に力を入れることは有意義であるのでぜひ推進してほしい。
- ・進んで活動する意欲を育ててほしい。
- ・情報端末等の活用で書く機会が減ってくると，なおさらコミュニケーション能力が大事になる。その基礎は挨拶であるので，地域全体で挨拶のできる児童を育てたい。
- ・伝統文化教育には情操教育の側面もあり，子供のうちから取り組ませることが重要。伝統文化は多岐に渡るので，さまざまなことに触れさせて日本のよさについて考えてほしい。
- ・異学年の学び合いは自己肯定感につながると考える。また，上の学年の児童にとっても準備の過程で学び直す機会となるので学習面での効果も想定できる。

3 我が家の協働型重点目標（保護者）について

（7月）児童一人に一つ、家庭で意識して取り組む目標を設定していただきました。

（12月）各家庭で、4段階で自己評価していただきました。

A：よくできた B：できた C：あまりできなかった D：できなかった

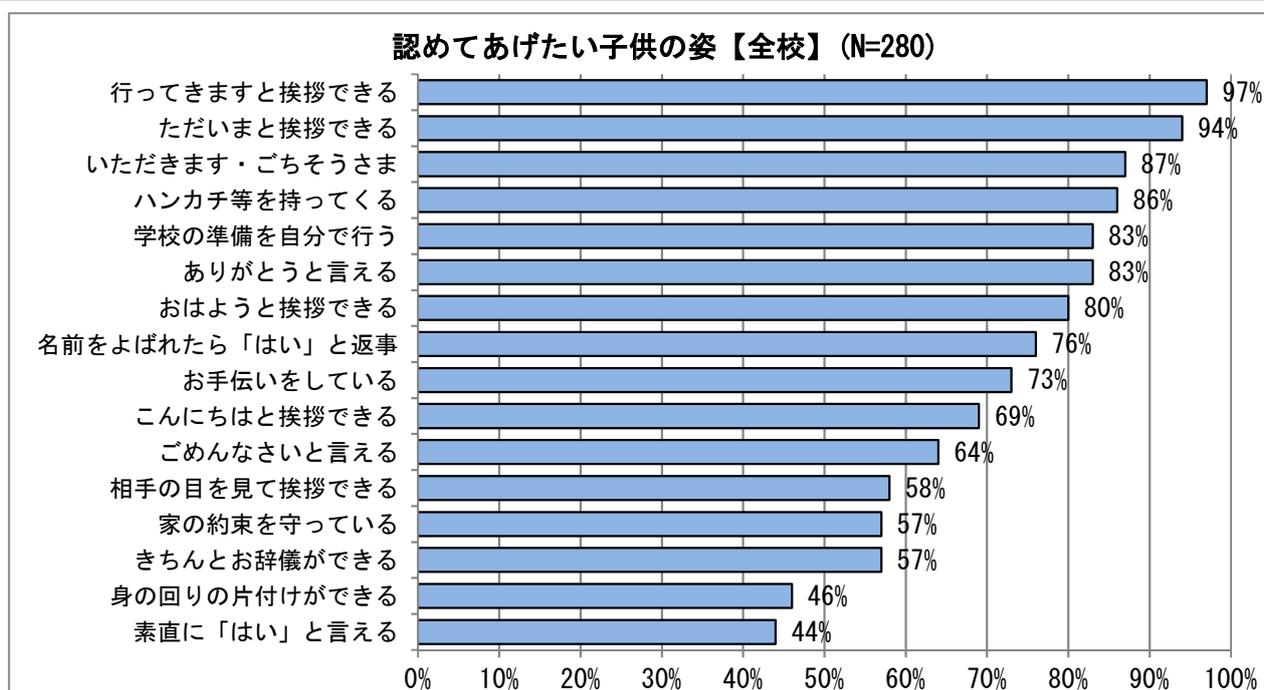


（1）分析について

- ・提出率は約90%でした。そのうち94%の方が自由記述欄にも記入していただきました。多くの家庭で意識的に取り組んでいただきました。
- ・全校で見ると、A・Bの評価を併せて約80%でした。
- ・自由記述欄への記入内容の89%は、子供の取組を賞賛したり、成果を認めたりする内容でした。また、25%は今回の取組を良い機会と捉え、今後も継続したいという内容でした。
- ・家庭での様子を評価するため、目標を自分事として設定し取り組んでいることが感じられました。
- ・家庭での様子をよく見取って記入していただきました。家庭での児童の姿を垣間見ることのできる記述が多く寄せられました。
- ・回収率や全体的な評価が高いことから、ほとんどの家庭が意識的に取り組み、児童の頑張りを積極的に認めていただいたことが分かりました。

4 認めてあげたい子供の姿について（保護者）

（7月）児童が今できていることを認め、励まし、長所を伸ばすため、16の項目で、ご家庭で「できている」と思われることに○印を記入していただきました。



(1) 分析について

- ・提出率は12月までに97.9%になりました。
- ・「行ってきます。」「ただいま。」「いただきます。ごちそうさま。」と挨拶する3項目はすべての学年で80%を超えました。
- ・「ありがとう。」「おはよう。」の2項目も全校で見ると80%を超えました。
- ・しかし、「こんにちは。」「ごめんなさい。」は70%を下回りました。特に「ごめんなさい。」については、下学年では50%を下回る学年もありました。
- ・「ハンカチ等を持ってくる」「学校の準備を自分で行う」の生活習慣に関わる2項目は、全校で見ると80%を超えました。
- ・「身の回りの片付け」「素直に『はい』と言う」は、全校で見ると50%を下回りました。この2項目はすべての学年で60%を下回る結果でした。
- ・我が家の協働型重点目標同様、回収率が高く保護者に高い関心を持って取り組んでいただきました。
- ・学校や家庭で意識的に取り組んだ結果、挨拶や返事については全体的に伸びていますが、発達段階による課題も見えてきました。

5 全体のまとめ

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、6月からのスタートとなりました。授業内容や行事等の変更を余儀なくされる中、試行錯誤しながら教育活動を展開してきました。保護者、地域の皆様からはいつも温かく御理解・御協力いただき、ありがとうございました。

以上の結果を踏まえ、来年度も「子供たちが学校大好きと言える学校」を目指して、自己有用感を育む教育活動を展開していきます。同学年・異学年の学び合いの機会を大切にしていくこと、学力を高める手立てとして読書習慣の形成に取り組んでいくこと、本校の特色である伝統文化教育を継承していくことを柱に、子供たちにとって魅力ある学校となるよう教職員一丸となって取り組んでいきます。